青梅市文化財ニュース

第２３３号

平成１９年3月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684　℡0428-23-6859）

天ヶ瀬グランド西にある庚申塔

東京都の都市計画の一つとして、滝ノ上及び天ヶ瀬町地内において青梅市都市計画道路事業が平成１５年９月から行われています。それにともない現在、天ヶ瀬町１０４５－２番地（図―１）にある庚申塔二基（写真―１）は、現在の場所から移される事になりますが、まだ移転先は決まっていません。（平成１９年２月末現在　西多摩建設事務所へ確認）後々の為に現在ある庚申塔を記録し残したいと思います。

「庚申（コウシン)」とは、十干の７番目の「庚（かのえ)」と十二支の９番目の「申（さる)」とが組み合わさったもので、６１回目に廻ってくるこの庚申の日に行われた信仰行事が「庚申待（守庚申)」です。庚申待は中国の道教で説かれた「三尸（さんし）の説」から出たと言われています。人間の体内にいる三匹の虫（三尸）が庚申の夜に人が寝ると天に昇り、天帝にその人の罪過を告げて早死にさせるので、その日は寝ずにいると三尸は天帝に罪過を告げることが出来ないので、長生き出来るという事です。

始めは平安貴族の「遊び」として流行した庚申待は、やがて室町時代中期に仏教思想が加わり、江戸時代には庶民の間で爆発的に流行するようになります。その背景には仲間との夜通しの会合や団欒が一つの楽しみだったと考えられます。

天ヶ瀬グランド西にある庚申塔は、天ヶ瀬通りと金剛寺から大柳に通じる（三島坂）との十字路に高さ７０センチの石垣の上に二基並んで建っています。

向かって右側は高さ約９５センチの笠付型の角柱に正面に『青面金剛と三猿（聞かざる・言わざる・見ざる)』が彫られており、左側面には『明和三年丙戌二月吉日』とあり、右側面には『庚申供養　天ヶ瀬講中』とあります。また左側は幅 120 センチ高さ 65 センチほどの半球のような岩に高さ約 130 センチの自然石の正面に『庚申塔』・右端に『天ヶ瀬田向念仏講中』と書かれており、左側面には『文政二

（裏面に続く）

年屠維単閼九月日』とあります。「屠維」（とい）は「己」の異名、「単閼」（たんあつ）は「卯」の異名であるから「屠維単閼」で「己卯」の年を表わしています。長い年月と風化に伴い判読しにくい文字につきましては、『青梅市の石仏』を参考にしました。時代とともにやむをえず石仏等が元あった場所から移されることもあると思います。その後の移転先も出来るだけ記録に残せたらと思っています。

（文責　儘田小夜子）

写真―１

図―１